春岡村の伝説

■■■春岡村に伝わる物語■■■

●番外編

今回は春岡村の「伝説」はお休みして、大雨にまつわる江戸時代に実際におきた「事件」をご紹介します。（大和田村古文書より）

寛延四年

綾瀬川堤切崩し事件

寛延四年（一七五一）七月二十日（新暦の九月九日）、大雨が降り綾瀬川流域の村は出水しました。被害を軽くしようとする下蓮田村などの農民が綾瀬川の水除堤を切崩す、という事件が起こり、丸ヶ崎村と下瓦葺村は奉行所に次のように訴え出ました。

御普請所之堤理不尽ニ切崩シ候出入

七月二十日の大雨以来、度々の大雨にて出水したところ、上瓦葺村、下蓮田村、小室村の上郷三ヶ村の農民が徒党を組み、綾瀬川の水除堤を切崩すとのうわさがあったので、私ども下郷村々は申し合わせて、昼間は丸ヶ崎村と下瓦葺村が、夜は下郷諸村から人足を出して番をする一方、拙者ども二ヵ村（下瓦葺村、丸ヶ崎村）と深作村で申し合わせて相手三ヵ村の名主へ掛合い、そのような事のないように念を押しました。にもかかわらず、二十六日昼九ツ時（一二時）、太鼓を打ち、何百人とも知れぬ者たちが徒党を組み、百姓に不似合いな弓矢その他鳶觜（トビクチ）、棒、鍬（クワ）などを持ち、下瓦葺村地内の堤三〇間（五四～五メートル）余りをものすごい勢いで切り崩してしまいました。それ以後出水の度に田の水は腐り、年貢を納めることもできないでおります。拙者ども二ヵ村の村番は随分防戦したのですが、おびただしい大人数ゆえ村方番人小勢では防ぎようもありませんでした。どうかこのような狼藉（ろうぜき）ができないよう御吟味下さい。

武州足立郡下瓦葺村　名主　安兵衛
同国同郡丸ヶ崎村　名主　治太夫

さらに下瓦葺村、丸ヶ崎村の下流に位置する深作村、堀崎村、宮ヶ谷塔村、宮下村、膝子村は「堤が切られたせいで、稲が青いうちに水を冠ってしまい難儀至極であります、御慈悲をもって二ヵ村の願いの通り上郷の三ヵ村の者どもを召し出し、御吟味の上、このような理不尽なことをしないよう仰せ付け下さいますよう、私ども一同願い上げ奉ります」と奉行所に追訴しています。

（※）「出入」（でいり）とは民事裁判のこと

平山由喜

■挿絵　訓蒙図彙（きんもうずい）（寛文六年）
職人尽発句合（寛政八年）

■参照　『大宮市史第３巻中』２４４頁
『大宮市文化財調査報告第２４集』